

株主の皆様へ

2022年12月発行



弾性を創造するパイオニア
Pioneer of Elasticity

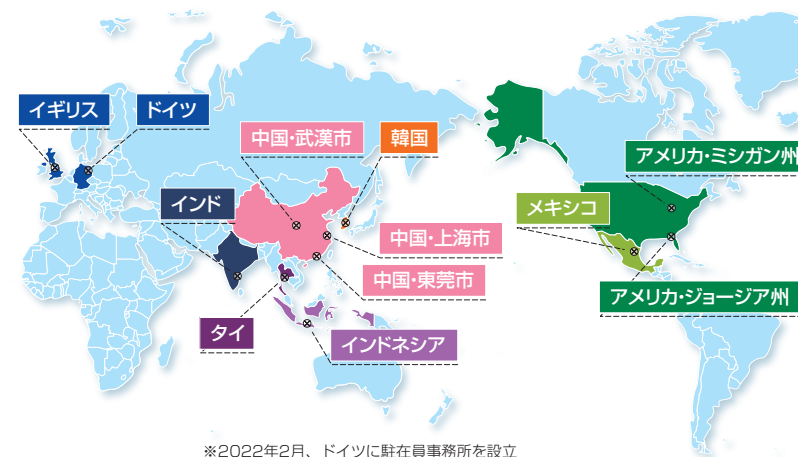
会社概要・株式の状況

■ 会社概要 (2022年9月30日現在)

設立 1939年9月24日
資本金 29億6,097万円
従業員 単体：596名
連結：2,785名

本社所在地
〒220-0022
神奈川県横浜市西区
花咲町六丁目145番地
横浜花咲ビル7階
TEL 045-577-3880 (代表)

■ グローバルネットワーク



※2022年2月、ドイツに駐在員事務所を設立

■ 役員の状況 (2022年9月30日現在)

代表取締役社長	島津幸彦
代表取締役専務	永峯道男
取締役	鈴木徹
取締役	増田茂
取締役	梶雅昭
取締役	落合宏行
取締役	赤羽真紀子
取締役(監査等委員)	石川元一
取締役(監査等委員)	浅野謙一
取締役(監査等委員)	小宮山 榮
(補)取締役(監査等委員)	廣渡 鉄

■ 株式の状況 (2022年9月30日現在)

発行済株式総数 38,054,100株
株主総数 14,826名

ホームページ
<https://www.piolax.co.jp/>

パイオラックス

検索

■ 株主メモ

事業年度 4月1日～翌年3月31日

株主名簿管理人 東京都千代田区丸の内
および特別口座の 一丁目4番1号
口座管理機関 三井住友信託銀行株式会社

郵便物送付先 〒168-0063
東京都杉並区和泉二丁目8番4号
三井住友信託銀行株式会社
証券代行部

0120-782-031 (フリーダイヤル)
受付時間：土日祝を除く
平日9:00～17:00



当中間期の業績の概要および通期業績見通しについて

株主の皆様には、平素より格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

当社グループの主要なお取引先である自動車業界につきましても、新型コロナウイルス感染症によるロックダウン等の影響に加え、世界的な半導体需要の逼迫を受けて自動車メーカー各社の減産が継続し、材料の供給問題・価格高騰、輸送コストの増加等の影響を受けるなど依然として厳しい状況下となったことから、国内生産台数も前年と比較して減少となりました。

このような需要環境のもと当社グループといたしましては、お取引先からのニーズを確実に捕捉し、グローバルに拡販活動を継続的に推進いたしました。新型コロナウイルス感染症によるお取引先からの生産縮小等に伴う減産影響を受け、売上高は27,707百万円と、前期比△296百万円（△1.1%）の減収となりました。一方利益面におきましては、より一層の合理化を推進いたしました。減収による限界利益の減少、原材料費や物流費、エネルギー費用等の高騰により、営業利益は1,651百万円（前期比44.9%減）、経常利益は2,062百万円（前期比41.4%減）、親会社株主に帰属する四半期純利益は1,439百万円（前期比43.0%減）となりました。

下期以降も半導体の影響による減収、材料や輸送費・エネルギーコストの上昇が見込まれることから、通期の業績予想を見直して開示しております。



中期経営計画（2022～2024年度）について

2022年度から3ヵ年の中期経営計画を6月に発表し、スタートしております。当社ではローリング方式で中期経営計画を策定し、毎年見直しを図っていますが、基本方針と経営戦略は前回から変更していません。「弾性を創造するパイオニアとして、広く産業や社会に貢献する」というビジョンのもと、新たな目標の達成に向け、重点施策を着実に実行して収益力を強化し、継続的な企業価値の向上に努めてまいります。

Vision

**弾性を創造するパイオニアとして、
広く産業や社会に貢献する**

基本方針

1. 既存事業の変革
2. 新規/次世代事業への挑戦
3. 経営基盤強化
4. 将来に向けた積極投資
5. ESG経営の推進

経営戦略

1. 商品・顧客戦略
2. 事業戦略
3. 地域別戦略
4. 成長投資戦略
5. 経営資本戦略

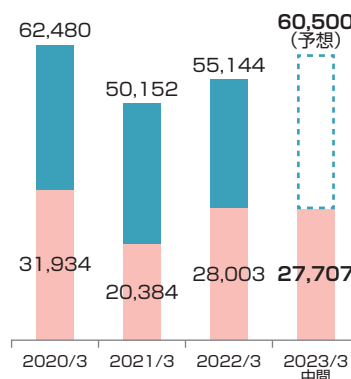
株主の皆様への還元について

今回の中期経営計画の中で、資本政策の見直しを実施いたしました。近年、当社の株価は低迷しており、企業の収益力が資本コストをどれだけ上回っているかを示す指標であるEVAスプレッドも2019年度以降はマイナスに落ち込んでいます。EVAスプレッドのプラス化やPBRが1倍を上回るよう、①株主還元策の強化と資本効率の一層の追求、②バランスシート経営の導入、③グループキャッシュマネジメントの徹底に取り組んでまいります。株主還元については方針を見直し、従来は配当性向30%以上を目標とした安定配当を目指してまいりましたが、2022年度から2024年度の3期間は配当性向を100%とし、積極的な株主還元を実施いたします。一方、将来の成長に不可欠な設備投資も行い、資本を有効活用して企業価値の向上に努めてまいります。

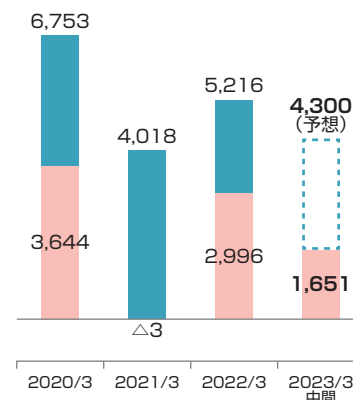
財務ハイライト

■ 連結通期
■ 連結中間

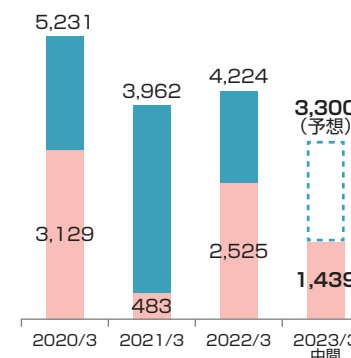
売上高（百万円）



営業利益（百万円）

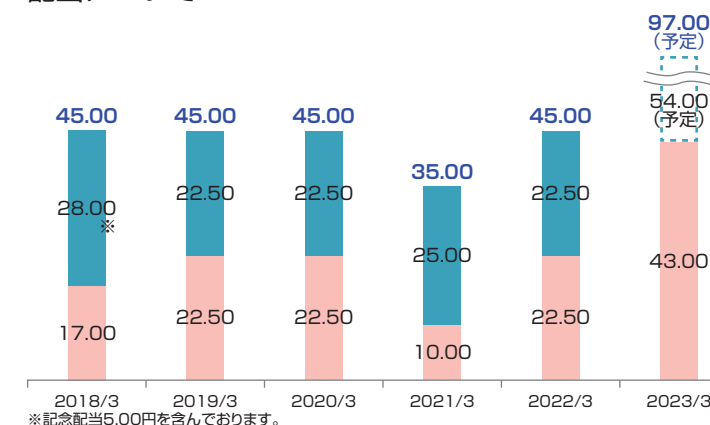


親会社株主に帰属する 中間(当期)純利益（百万円）



配当について

■ 期末配当金(円) ■ 中間配当金(円)



【自動車関連分野】

自動車関連は、パイオラックス全体の売上高の中でも約9割を占める主力分野です。1台の自動車です当社グループの製品が1,500個以上使用されるケースも珍しくありません。その内容は、精密ばね、樹脂ファスナー、それらを複合して組み立てた小型ユニット部品など、どれも自動車には不可欠な製品ばかりです。国内のカーメーカーをはじめ、海外のカーメーカーとも取引があります。

■ ファスナー部品



内外装部品の固定や電線を束ねる各種クリップ類、パイプとゴムホースの接合部で、漏れ・抜け止めを防ぐホースクランプなど。

■ 開閉機構部品



グローブボックスなどのオープン機構に用いられるエアダンパーやラッチなど。

■ 駆動系部品



トランスミッションなどの自動車の駆動機構に用いられるリテーナーASSYや部品保持力を高めるためのスナップリングなど。

■ 燃料系部品



燃料を安全で確実に給油・貯蔵・供給するために用いられる各種バルブ類を中心に、チューブ、フィルターなど。

CASEに向けた取り組み

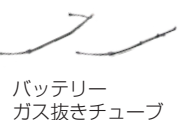
自動車業界は「CASE」と呼ばれる新しい領域で技術革新が進み、100年に1度といわれる大変革期を迎えています。特に当社にとって自動車の電動化の影響は大きく、電動化に伴い、今後受注の減少や消滅が見込まれる製品があります。一方で、この大きな変化は新たなビジネスチャンスでもあると捉え、2022年4月にCASE対応商品の開発、拡販をさらに強化するための専門部署「e商品開発部」を新設しました。

開発、拡販のターゲットとしている商品は、電動化に対応するバッテリー関連商品、自動運転機能となるADAS（先進運転システム）に関連したセンサー・カメラ周辺機器、今後EV化を加速させるといわれている動力装置e-Axel（EV駆動モータシステム）関連商品、電動化による車内の静音性への要求に応える制振関連商品などです。2030年CASE対応商品売上高100億円を目標に、開発および受注拡大に取り組んでいきます。

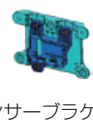
主なターゲット商品



バスバー



バッテリー
ガス抜きチューブ



センサーブラケット



駆動系部品



制振ストッパー

グローバルマザー工場の建設

当社は更なる成長に向け、日本国内のインフラ整備計画を推進しています。2022年度より正式に真岡工場（栃木県）のリニューアルに着手いたしました。現真岡工場の隣接地に新しい工場を建設し、真岡地区に新たな生産体制を構築する計画です。

新真岡工場は、パイオラックスブランドを世界に向けて発信する「グローバルマザー工場」になります。主なコンセプトは、①高度な生産設備と体制により、自動車産業の多様なニーズに対応する、②生産性200%の高収益な生産体制を構築する、③ヒトと環境に優しい最先端工場を目指す、としており、SDGsの目標と連携した取り組みも進めています。第1期工事完了は2023年度を予定しています。



第1～2期工事

- 工事開始時期：2022年度下期
- 本格稼働時期：2023年度
- 今後の計画

2024年度	第2期工事着工
2025年度	稼働（第2期）
2030年度	稼働（第3期）

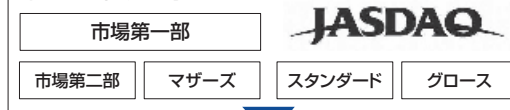
プライム市場への移行

2022年4月4日より当社は「東証一部」から「東証プライム」に移行いたしました。

東京証券取引所は、市場区分を「プライム市場」「スタンダード市場」「グロース市場」の3つの新しい市場区分に再編しました。当社は、最上位となる「プライム市場（株主数800人以上、時価総額250億円以上、流通株式比率35%以上などの基準をクリア）」へ移行いたしました。



従来の市場区分



新市場区分



【医療関連分野】

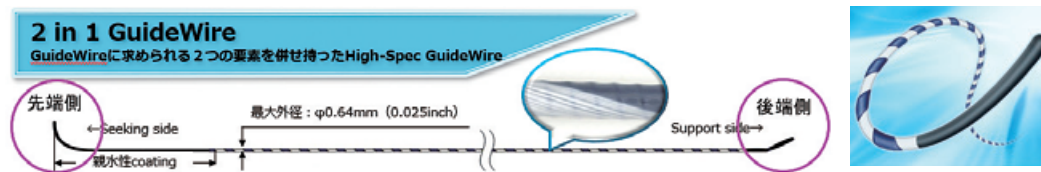
自動車部品製造で培った高度な弾性技術、表面処理技術などを応用し、医療機器分野においても、先進性のある製品を開発・製造・販売しております。身体への負担が少ないインターベンション治療用の医療機器を開発し、弾性技術で医療に貢献することを目指しております。

新商品紹介

消化器内視鏡用ガイドワイヤー RevoWave DualMaster (レボウェーブ・デュアルマスター)

「1本のガイドワイヤーで治療が完遂できる」をコンセプトに開発した新たな消化器内視鏡用ガイドワイヤーです。ガイドワイヤーは、細く柔らかい針金のような形状の医療器具で、血管内治療や内視鏡治療で使用するカテーテルなどの医療器具を病変部まで導く役割（ガイド）を果たす製品です。先端形状は製品により異なり、医師は使用する部位の状態に応じて、複数本のガイドワイヤーを使用するのが通例です。

Dual Masterはその名の通り、両端が使用できる設計です。パイオラックスメディカルデバイス独自の技術で、ガイドワイヤーの表面を凹凸（波状）構造にして滑り性能を向上させたことに加え、ガイドワイヤー両端部の柔軟性を先端と後端で変え、解剖や病変の違いによって使い分けられるようにしました。主に胆膵内視鏡治療にあたる医師が、従来のガイドワイヤーでは複数本使用して治療していた症例も1本で治療が完遂できます。



【第3の事業の柱の構築】

当社グループの事業の柱は、自動車部品と医療機器の2本ですが、今後、自動車事業だけに頼るのは大きなリスクであると捉え、医療機器に続く第3の事業の発掘を目指しています。これまでの自動車部品、医療機器、あるいは製造業など、既存の枠にとらわれずに新しい事業を模索すべく、2022年4月に新規事業創出を担う「MIRAI事業部」を新設しました。部署名の「MIRAI」には、「未来」にわたって、当社グループの持続的成長をけん引する新規事業を創出するという思いを込めています。



当社は、サステナビリティへの対応を重要な経営課題と捉え、2021年12月にサステナビリティ委員会を設置し、サステナビリティ方針を制定しています。当委員会では、サステナビリティおよびESG経営に関する方針やマテリアリティの策定、目標の設定と進捗状況のモニタリング、TCFDに基づくリスクと機会の特定などを実施しています。

当社グループは、2022～2024年度の中期経営計画において、「ESG経営の推進」を基本方針の一つに定めており、持続可能な社会の実現に向けて、サステナビリティに関する様々な取り組みを推進しています。今後もESG経営を加速させることで、当社グループが持続的に成長していくとともに、事業を通じて持続可能な社会への貢献と社会課題の解決に取り組むことで、中長期的な企業価値の向上に努めてまいります。

TCFD提言に賛同

2022年3月、「気候関連財務情報開示タスクフォース（TCFD）※」提言への賛同を表明いたしました。併せて、TCFD提言に基づく気候変動への取り組みに関する情報開示を行いました。



今後も気候変動がもたらすリスクと機会について継続的に分析・対応し、より充実した情報開示に努めることで、当社グループの継続的な事業成長につなげていきます。

ESG投資インデックスへの選定

当社は、このたびESG投資の代表的指数である「FTSE Blossom Japan Sector Relative Index」の構成銘柄に初めて選定されました。「FTSE Blossom Japan Sector Relative Index」は、グローバルインデックスプロバイダーであるFTSE Russellにより構築されるインデックスです。各セクターにおいて相対的に、環境、社会、ガバナンス（ESG）の対応に優れた日本企業のパフォーマンスを反映するインデックスであり、年金積立金管理運用独立行政法人（GPIF）のESG投資におけるベンチマークの一つとして採用されています。



※G20の要請を受け、金融安定理事会（FSB）により設立された「気候関連財務情報開示タスクフォース（Task Force on Climate-related Financial Disclosures）」。